

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2170400564		
法人名	有限会社 サンシャイン		
事業所名	グループホームすずらん(幸せの再来) 1階		
所在地	岐阜県羽島市正木町不破一色305番地		
自己評価作成日	令和 4 年 8 月 1 日	評価結果市町村受理日	令和 5 年 1 月 17 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JgvoosyoCd=2170400564-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JgvoosyoCd=2170400564-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 岐阜後見センター
所在地	岐阜県岐阜市平和通2丁目8番地7
訪問調査日	令和4年9月9日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

コロナ禍で外出の機会が減っているが、近所の花見に出かけたり、折り紙で花を作り展示したり、季節の生花を飾ったりと、少しでも季節を感じ、気分がリフレッシュ頂ける様に工夫しています。施設全体では、おやつを全て手作りに変え、食事も満足して頂けるよう努力しています。利用者様の様子、状況(状態)、願い(思い)を詳しく申し送りや連絡ノートを活用し、職員間でスピーディーに情報共有、統一したケアやその時々で臨機応変に対応出来るようにしています。ケアプランの変更や薬の処置についても同様です。職員同士もコミュニケーションがよく取れています。意見交換や他職種へ報告、相談ができ、対応が早い為、利用者様やご家族様への支援がしやすい。健康面や医療を受けて頂くことについて安心感を得られています。良いケアが出来るまで検討を繰り返している。入浴を嫌がる方は、清拭対応を行ってみたい、陰部の洗浄も毎日何回か行うことで、清潔が保てている。入浴日以外には足浴を取り入れ、薬の塗布を行い、細やかなケアを継続している。利用者様同士協力して、家事作業を行ったり、職員と会話しながら食事作りをしたり「一緒に行く」ことを大切にしています。立位が保てない方についても、座ったままで出来るように、環境を整えています。フロアー職員皆で、利用者様が笑顔で暮らして頂ける支援を目指しています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

利用者は、「誰かの大切な人」であること、そして「笑っていられるように」という理念を高く掲げ、利用者の立場から考える観点から、職員ワンチームで利用者に寄り添う姿勢で支援にあたっている。建物は閑静な住宅街に位置し、和風の落ち着いた作りであり、日光浴が楽しめるようウッドデッキを広く設置する等、心地よく過ごせる居住環境である。入居時には利用者の不安な気持ちを理解し、ゆっくり、じっくりと環境に慣れてもらい、安心して過ごせるよう支援に取り組んでいる。現在、いまだコロナ禍の状況にあるが、その中にも、花見や買い物、農園へいちご狩りや芋掘り等、可能な限り外出支援を行っている。また、感染状況に合わせて、家族との対面会時に散歩等の外出もできるよう支援している。外部講師を招き、認知症ケアについて毎月研修を行っており、利用者支援へのアクションに向けたサジェスションを得る等、良い成果が出ている。外出支援に制限があるので、室内での楽しみづくりとして、嚥下状態等の身体状況に合わせた手作りおやつを皆で作っている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	私達ホーム職員が理念に添った介護サービスを提供することにより、ご家族やこの地域で、どのような安心感を得て下さっているか、職員会議や毎日の申し送り時などで、事例紹介を行い、各職員に意識付を行っている。より良いサービス向上へ繋げている。	全職員が、理念である「笑顔」を大切に支援にあたるべく、職員会議やフロア会議、申し送り時に職員間で共有し、利用者一人ひとりが、常に「誰かの大切な人」という意識を持ちつつ、ケア実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染防止に配慮しつつ、地域医療機関へご家族と定期通院頂いたり、担当の民生委員様に面会頂いたりしている。日々の散歩でご近所との繋がりが途切れないように心がけている。ボランティア様の受け入れはまだ行ってない。	今年度もコロナ禍の影響で地域交流も制限的にならざるを得ない状況であるが、毎月、民生委員の来訪による交流があったり、状況により周辺散策に出かけ、近隣の方々や挨拶を交わしたりしている。家族の面会時には、声かけする等して家族と一緒に散歩している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居のお問合せ時など、今、認知症状で困ってみえることに助言させて頂いたり、ケアマネージャ様の対応へのご質問にお返事させて頂いている。今年2月には地域交流会と題しユウチュウ配信(ホームの様子紹介)を行った。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染拡大防止の観点から、資料配布に止めている。報告内容の感想や要望を書面で頂き、サービス向上へ繋げている。	コロナ感染対策で運営推進会議を書面上で行っている。資料配布により利用者の状況説明、ヒヤリハット・事故の報告、行事等報告を行い、書面で意見の聞き取りを行っている。行事報告については、写真を掲載する等、わかりやすくしている。	リーダー等、職員が育っていく中、運営推進会議も育成に資する場とする等して、活用されるのも一考である。また、オンライン会議の実施等、新しい開催に向けた取り組みにも期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	通常の連絡はメール連絡頂いている。何かあれば、気軽に窓口へ相談に行くことが出来ている。協力体制にある。	市役所とは、コロナ感染症対策の情報提供を得る等、日常的に連絡体制ができています。地域包括支援センターとは、運営推進会議での情報交換や入居状況についての連絡を取り合う等、協力体制ができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月1回のリーダー会議時にフロアの様子等の申し送りをしている。身体拘束に繋がる様な不適切ケアについても注意を払っている。身体拘束のリスクや防止方法についてご家族にも説明させて頂いている。	毎月、外部講師を招き、認知症ケア研修を行うことで、認知症への学びを深めている。玄関の施錠をせず、帰宅願望のある方も制止せず、ともに散歩したり、ドライブに出かける等、根気よく対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	外部の講師を招いての定期研修でも虐待防止について取り上げている。外部研修へも職員を参加させ知識を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市町村と相談し、安心してホームで生活頂ける様、身元保証の契約を結んで頂いた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や契約内容に変更がある場合、個々に丁寧に説明する機会を設けている。サービス計画書説明時や体調変化がみられる場合も個別に不安や疑問点について伺い、ご利用者が安心してホームで生活出来る様に働きかけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部の相談機関のご紹介を契約時に行っている。日々のケアの中で、どの様なご要望があった場合でも、一度前向きに検討している。ご家族宛でのアンケートにて、聞き取りを行っている。	家族には来訪時や電話等で意見や意向を伺っている。毎年1月頃に、ホーム独自のアンケートを実施し、いただいた意見は職員会議等で話し合い、改善に向けて取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回、管理者、施設長、フロアリーダーで話し合う機会を設け、自由な意見交換が出来る。各職員に対しても年1回管理者との面談と、加えて、契約更新時にその時間を設けている。	日常的に仕事を通じた意見聴取に加えて、フロアごとで話し合いの場があり、意見を出し合っている。また、毎月の職員会議や毎年の管理職によるフィードバック面談等による意見把握を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の勤務条件の希望や将来に向けた希望の聞き取りなどを行っている。各フロアリーダーより勤務状況、介護技術、ホーム理念の理解の深まり等について報告を受け把握に努めている。現在、新たな評価基準作成を進めている。スムーズに研修受講できる様、事業所として費用や勤務について支援を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	有資格者からの指導を受ける機会を設けたり、メンター制度を導入している。その他、外部講師を招いての研修を行っている。初任者研修等、事業所外の研修を受ける機会作りも勤めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	この3年間、新型コロナウイルス感染症予防の為、他事業所等との交流がなかなか持てていない。この様な状況で出来る事を見出すことが出来ていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用契約前に、ご家族やご本人から、今までの生活習慣や大切にしていることを出来る限り細かく聞き取り、入居後、ケアを受けて頂くことに戸惑いの無い様、関わりを持っている。特にご家族の中で不安が強い「本人が不安なく入居出来る」事について、デイサービス利用からスタート頂いたりするケースが増えている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前に、ご家族の今までの関わりや思い、入居後の生活の希望を聞き取っている。私達すずらんの職員で期待に応えることが出来る内容を説明。入居後のご様子や関わり様子を説明させて頂いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在の生活の中で心配されている、認知症状、身体の機能、精神状態を聞き取っている。その上で、ご本人やご家族が心配されている事が解決できる方法を一緒に考え、場合によっては医療機関や他サービスに相談をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ホームでの生活の主体は利用者であることを忘れないような関わりが持てる様に努めている。意思決定支援について学び実践に繋げている。生き活きと力が発揮出来るような支援に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人とご家族がどの様な関係にあるのか知る努力をしている。ご本人の支援にはご家族の支援が必要不可欠なものであることを職員にも説明。子ども様方にも、兄弟間などで価値観や思いの違いがあることを理解し、ご本人の為に助け合うことが、いかに大切かを繰り返しお話しさせて頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近年のコロナ禍で、大切な家族とも面会がままならない時期もある。そんな中で、面会方法を個別に検討したり、ご様子の説明方法についても携帯のラインやメール、電話を利用し柔軟な対応を行っている。	自身の携帯電話で家族等と交流している利用者もいる。さらに、ラインで写真や動画を送ったり、ビデオ通話を行う等して、関係継続の支援に努めている。ホームページのブログを楽しみにしている家族もみえるとの事である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや家事作業等を通して、利用者様同士が楽しく関りが持てる様、考え支援を行っている。日常の中で、テーブルを囲み、皆でおしゃべり出来る雰囲気にある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	近年のほとんどがホームでお看取りさせて頂くケースである。お葬儀への参列やホームでのアルバムをお渡しするなど、ご家族に向けた支援を行っている。入院された場合などは適切に情報提供を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、利用者様とよく会話し思いを聞き取り支援に繋げている。その方に何が必要かを検討している。起床時間や朝食の時間、洗濯物の取り扱い、入浴などについても心身の状態に合わせ、個別の対応を行っている。	入居のアセスメントの際に利用者の意向の把握を行い、利用者の不安や戸惑った気持ちを受け止め、利用者一人ひとりの生活スタイルを尊重して、落ち着いた生活が送れるよう支援にあたっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、ご家族、関係機関の担当者から暮らしを聞き取り、センター方式等を利用し介護職員に情報提供を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	健康状態の変化が大きい方もみえる為、温度版チャートを利用し申し送りを行っている。ケアプランについてもデータ化し把握している。主治医やリハビリ担当者からも情報提供を受け、現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様の状態の変化に気を付けるように、ご本人の普段の言葉や行動に感心を持ち関わっている。それらの情報を元に、ご家族や主治医と意見交換し、介護計画を作成している。	計画作成にあたって、ニーズオリエンテッドな観点から、利用者や家族の意向を踏まえ、医師、看護職等の多職種と連携しながら、利用者の現状に即した介護計画を作成している。定期的なモニタリングを実施し、計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプラン内容、実践状況などが職員間で共有しやすくなっている。健康状態についても直近2週間のチャートを利用し、個別に把握出来るようになっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別の外出や、連携医療機関以外の病院受診を希望される場合など、家族関係、家族の生活状況に応じ、外出時の同行や送迎などホームで対応させて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルス感染防止の為、地域へ出ることも、ホームへ来て頂くことも、今できることを考え行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に希望される医療機関の確認を行い、主治医と連携を取らせて頂いている。必要があれば、ご家族も同行頂き、直接主治医から話を聞いて頂いている。専門医受診が必要な場合は必ずご家族に相談させて頂いている。お看取りの場合も主治医からの十分な支援があり安心頂いている。	利用者・家族は入居前の主治医か協力医療機関のどちらでも選択することができるが、従前からの主治医を利用している方が多い。主治医の往診や緊急時の対応等、密な連携ができており、適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様の心身の状態の変化に気付いた場合は、些細な事でも必ず、個別の看護・連絡欄に記載し申し送りを行っている。早期に適切な受診や看護を受けられる体制になっている。訪問リハビリについても同様である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	認知症の方が入院された場合のリスクを常に考え、家族や主治医、病院相談員と情報交換を行っている。入院時は必ず同行し、医療機関への情報提供を行っている。何かあれば、病院関係者や家族と相談させて頂いている。急な退院にも対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた方針について「重度化した場合と看取りの指針」を配布し説明を行っている。ご本人、家族の状況に配慮しつつ看取りを行っていくうえで、どの様に関係者が協力体制をとっていくか、その都度相談させて頂いている。ご家族の意向に添うよう努力している。	入居の際に、利用者・家族に終末期の在り方や看取りの方針を説明するとともに、意向確認している。また、重度化した際には、その都度、利用者・家族の意思を確認しつつ、意向に沿った支援にチーム一丸で、取り組んでいる。看取りの振り返りを行い、意識を高めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成している。急変時にはバイタルチェックを必ず行い、看護師、施設長に報告を入れる事を普段から徹底している。利用者様の個別の病状について把握出来る様、個別のファイルを作成している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を行い、避難方法や搬送方法を学んでいる。各フロアには停電時に備え、懐中電灯を用意している。水害災害時の垂直避難訓練を実施。	簡易版BCPのシートを作成し、ホーム内に提示し、職員の共通理解に努めている。緊急連絡網として、ラインのグループ連絡網を作成し、非常時に備えるとともに、食糧や水、ラコール、内服薬を備蓄している。地域住民との訓練は、現状、コロナ禍以降行っていないが、状況を見ながら再開を検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の心を傷つけてしまわないような声掛けの仕方、感謝の言葉の大切さについて、繰り返し話し合いを行い、良い結果に繋がっている。認知症研修においても接遇・マナーの研修を行った。	利用者の個性を尊重する観点から、日々、その時、その場の利用者の気持ちを受け止め、「ケアをさせていただく」という態度で接するとともに、利用者の反応や答えをすぐに求めず、待つ姿勢を大切にしている。職員間で話し合い、利用者理解を深めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の言葉や手振り、身振り、表情に何の意味があるのかや思いを常に考え関わっている。何か行う時には必ず利用者様に何うようにしている。発言しやすい雰囲気作りが大切だと感じ、笑顔を中心掛け、実践に繋げる努力をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおまかなホームでの日課は決まっているが、ご本人の希望や体調により個々に過ごし方を変えています。自発的に行って頂いている事を大切に継続出来る様支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容は2ヶ月に1回利用頂いている。衣類が汚れた場合は早めに着替えて頂ける様、支援している。口元や手の汚れにも注意している。爪切りなど介護職員で困難な場合は看護師に依頼し行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のメニューや下ごしらえ、調理などケアプランに入れ、手伝って頂いている。食器洗いや食事前後のテーブル拭きの担当の方がある。季節が感じられる食事提供(おはぎや七草がゆ等)を心がけている。	各フロアで独自に、献立を作成し、季節に合わせた行事食を提供する等、食事が楽しみになるよう取り組んでいる。おやつも嚥下状態が悪い方や糖尿病等の疾病がある方等、利用者の身体状況を考慮し、工夫して作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分不足な方にはゼリーやその方の好みの合った物を提供し、摂取頂いている。ご家族からの差し入れもお願いし、飲んだり食べたりが出来る様工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアを行っている。舌ブラシや洗口剤を個別で使用頂いている。必要に応じ歯科受診や往診の支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居時に紙パンツを使用されていた方でも、個々に対応することで布パンツへ変更して頂いたり、パット内失禁がない様にトイレ誘導の声掛けを行ったりしている。尿取りパットについて、3種類を取り入れ、個々の排泄パターンでの個別対応に変更。	利用者の意向や生活状況を把握し、排泄の自立に向けた取り組みを行っている。例えば、入院時には紙パンツであった方に対して、本人のしぐさや言動を観察しつつ、支援方法を工夫し、布パンツに移行した等、排泄の自立支援につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬ばかりに頼るのではなく、バナナ、乳酸飲料や牛乳の飲用、運動を取り入れ、予防に取り組んでいる。腹部の温湿布やマッサージなども取り入れ、調子の良い排便のパターンを作り出している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日やおむねの時間帯は決まっているが、その日の体調や気分が入浴日や時間を変更。入浴剤を使用し、気分良く入って頂ける様、支援している。毎日、声掛けをさせて頂いている方もある。入浴拒否の方には、清拭を取り入れたり、入浴日以外で足浴を行ったりして、徐々に慣れて頂いている。	利用者の希望に応じて、柔軟に入浴支援を行っている。入浴を拒否される方には、利用者のペースに合わせ、時間をかけて、入浴できるよう支援している。また、重度化しても入浴できるようシャワーキャリーも活用している。季節感を感じてもらえるよう、ゆず湯等を提供している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝や、夜の入床時間など個々に対応させて頂いている。不安な時は、話を傾聴し落ち着いて眠って頂ける様な関りをさせて頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	把握しており、症状の変化に注意している。薬の変更について随時、看護師から申し送りがあり、利用者様に変化が見られれば、看護師に申し送っている。ご家族の心配事なども伺い主治医に伝えている。かかりつけ薬剤師との連携も行い、体調変化に対応。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方が出来る事、好きな事を見つけ、散歩、レクリエーション、月の行事、家事作業など楽しみの支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	ご本人やご家族が希望される医療機関への通院、おやつや買い物、散歩、花見など、コロナ禍であっても、外へ出かける機会を増やす努力をしている。	今年度も、引き続きコロナ禍の影響により、外出支援が制限的にならざるを得ない状況にあり、以前行っていた外食は自粛している。しかしその中であっても、感染対策を実施して、できる限り外出支援に努め、ホームの農園に行き、いちご狩りや芋掘り等を行ったり、桜や藤の花見や、買い物等への外出支援に取り組んでいる。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金を持ちたいと希望される方があり、安心感を感じて頂くために、財布に入れて持って頂いている方がいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話に関しては、利用者様やご家族の希望があれば、ホームの電話を利用して頂いている。手紙などもお渡ししている。携帯電話のライン機能を利用し、画像の送信やビデオ通話にてコミュニケーションを取って頂いている方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内を清潔に保ち、不快感を感じ無い様に配慮している。玄関やフロアー、洗面所に季節の花を飾るなどし、ゆったりと落ち着いた雰囲気でも過ごして頂ける様、工夫している。作品作りなども利用者様に楽しみながら行って頂けるよう工夫している。	リビングは廊下も広く、洗面所、トイレ、浴室等は車椅子でも入れ、共用空間に余裕がある。また掃除が行き届き、清潔に保たれている。リビングには、テレビがあり、壁面に利用者の作品や季節感のある飾りが掲示してあった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ウッドデッキ、玄関に配置された椅子に座って頂ける様、個別に過ごして頂く場所があり、利用者様自身の能力で上手に使い分けてみえる。利用者様によっては事務所に話しに来られる方もいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自身の作品や写真で室内を飾ったり、清潔感や安全面にも配慮している。ご自宅から思い出の物を持ち込んで頂いている方もいる。TV番組表を掲示し、楽しみにされている事への支援も行っている。	居室は作り付けの棚があり、テレビを置くチェストや机として利用している。畳を敷き、布団を利用している利用者もいる。また、安全に過ごせるように、見守り機器や低床ベッド等活用している。利用者の従前の生活スタイルを尊重した居室づくりができています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーで手すりの設置もされている。ウッドデッキを通り庭へ洗濯物を干しに行ったり、取り込んだりして頂くことが出来る様に工夫している。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170400564		
法人名	有限会社 サンシャイン		
事業所名	グループホームすずらん(幸せの再来) 2階		
所在地	岐阜県羽島市正木町不破一色305番地		
自己評価作成日	令和 4 年 8 月 1 日	評価結果市町村受理日	令和 5 年 1 月 17 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2170400564-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2170400564-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 岐阜後見センター
所在地	岐阜県岐阜市平和通2丁目8番地7
訪問調査日	令和4年9月9日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

私達職員は、利用者様の生活スペースへ入る時、どんな時でも元気いっぱい、利用者様お一人お一人の顔を見て名前を呼んで挨拶することを心掛けています。フロアの雰囲気は私達職員次第で大きく変わることを自覚しています。常に明るい表情で業務に付く様、意識しています。例えば、手を引いて歩いて頂く方には、会話をもち、少しでも笑って頂ける様心がけたり、「1.2.3…」や「よいしょ！」など体が動きやすくなる様に元気に声をかけたり、お話をさせて頂く時は必ず目線を合わせるなどの心配りを忘れません。皆様、目上の方なので、失礼のない話方や、対応が出来る様にと思っています。否定的な言葉を出来る限り使わないような工夫をしています。トランプや折り紙を折ったり、昭和の出来事の話や歌を唄うなど、一緒に過ごす時間を大切にしています。暗い表情の方があれば、そのままにせず声をかけ具合を伺い、お気持ちを傾聴し、不安を取り除きたいと思っています。お看取りの時期にある方にも出来る限り訪室し、声をかけ、早期に状態の変化に気づき、看護師へ報告。対応を繰り返し検討しています。利用者様同士もお互いを気遣う場面が多くみられます。職員、利用者様共に、何かあれば本気で心配し合える、家族のような関係性が自慢です。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	私達ホーム職員が理念に添った介護サービスを提供することにより、ご家族やこの地域で、どのような安心感を得て下さっているか、職員会議や毎日の申し送り時などで、事例紹介を行い、各職員に意識付を行っている。より良いサービス向上へ繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染防止に配慮しつつ、地域医療機関へご家族と定期通院頂いたり、担当の民生委員様に面会頂いたりしている。日々の散歩でご近所との繋がりが途切れないように心がけている。ボランティア様の受け入れはまだ行っていない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居のお問合せ時など、今、認知症状で困って見えることに助言させて頂いたり、ケアマネージャ様の対応へのご質問にお返事させて頂いている。今年2月には地域交流会と題しユウチュウブ配信(ホームの様子紹介)を行った。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染拡大防止の観点から、資料配布に止めている。報告内容の感想や要望を書面で頂き、サービス向上へ繋げている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	通常の連絡はメール連絡頂いている。何かあれば、気軽に窓口へ相談に行くことが出来ている。協力体制にある。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月1回のリーダー会議時にフロアーの様子等の申し送りを行っている。身体拘束に繋がる様な不適切ケアについても注意を払っている。身体拘束のリスクや防止方法についてご家族にも説明させて頂いている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部の講師を招いての定期研修でも虐待防止について取り上げている。外部研修へも職員を参加させ知識を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市町村と相談し、安心してホームで生活頂ける様、身元保証の契約を結んで頂いた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や契約内容に変更がある場合、個々に丁寧に説明する機会を設けている。サービス計画書説明時や体調変化がみられる場合も個別に不安や疑問点について伺い、ご利用者が安心してホームで生活出来る様に働きかけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部の相談機関のご紹介を契約時に行っている。日々のケアの中で、どの様なご要望があった場合でも、一度前向きに検討している。ご家族宛てのアンケートにて、聞き取りを行っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回、管理者、施設長、フロアリーダーで話し合う機会を設け、自由な意見交換が出来ている。各職員に対しても年1回管理者との面談と、加えて、契約更新時にその時間を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の勤務条件の希望や将来に向けた希望の聞き取りなどを行っている。各フロアリーダーより勤務状況、介護技術、ホーム理念の理解の深まり等について報告を受け把握に努めている。現在、新たな評価基準作成を進めている。スムーズに研修受講できる様、事業所として費用や勤務について支援を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	有資格者からの指導を受ける機会を設けたり、メンター制度を導入している。その他、外部講師を招いての研修を行っている。初任者研修等、事業所外の研修を受ける機会作りも勧めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	この3年間、新型コロナウイルス感染症予防の為、他事業所等との交流がなかなか持てていない。この様な状況で出来る事を見出すことが出来ていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用契約前に、ご家族やご本人から、今までの生活習慣や大切にしていることを出来る限り細かく聞き取り、入居後、ケアを受けて頂くことに戸惑いの無い様、関わりを持っている。特にご家族の中で不安が強い「本人が不安なく入居出来る」事について、デイサービス利用からスタート頂いたりするケースが増えている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前に、ご家族の今までの関わりや思い、入居後の生活の希望を聞き取っている。私達すらんの職員で期待に応えることが出来る内容を説明。入居後のご様子や関わりの様子を説明させて頂いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在の生活の中で心配されている、認知症状、身体の機能、精神状態を聞き取っている。その上で、ご本人やご家族が心配されている事が解決できる方法を一緒に考え、場合によっては医療機関や他サービスに相談をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ホームでの生活の主体は利用者であることを忘れないような関わりが持てる様に努めている。意思決定支援について学び実践に繋げている。生き活きと力が発揮出来るような支援に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人とご家族がどのような関係にあるのか知る努力をしている。ご本人の支援にはご家族の支援が必要不可欠なものであることを職員にも説明。子ども様方にも、兄弟間などで価値観や思いの違いがあることを理解し、ご本人の為に助け合うことが、いかに大切かを繰り返しお話しさせて頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近年のコロナ禍で、大切な家族とも面会がままならない時期もある。そんな中で、面会方法を個別に検討したり、ご様子の説明方法についても携帯のラインやメール、電話を利用し柔軟な対応を行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや家事作業等を通して、利用者様同士が楽しく関りが持てる様、考え支援を行っている。日常の中で、テーブルを囲み、皆でおしゃべり出来る雰囲気にある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	近年のほとんどがホームでお看取りさせて頂くケースである。お葬儀への参列やホームでのアルバムをお渡しするなど、ご家族に向けた支援を行っている。入院された場合などは適切に情報提供を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、利用者様とよく会話し思いを聞き取り支援に繋げている。その方に何が必要かを検討している。起床時間や朝食の時間、洗濯物の取り扱い、入浴などについても心身の状態に合わせ、個別の対応を行っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、ご家族、関係機関の担当者から暮らしを聞き取り、センター方式等を利用し介護職員に情報提供を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	健康状態の変化が大きい方もみえる為、温度版チャートを利用し申し送りを行っている。ケアプランについてもデータ化し把握している。主治医やリハビリ担当者からも情報提供を受け、現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様の状態の変化に気を付けるように、ご本人の普段の言葉や行動に感心を持ち関わっている。それらの情報を元に、ご家族や主治医と意見交換し、介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプラン内容、実践状況などが職員間で共有しやすくなっている。健康状態についても直近2週間のチャートを利用し、個別に把握出来るようになっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別の外出や、連携医療機関以外の病院受診を希望される場合など、家族関係、家族の生活状況に応じ、外出時の同行や送迎などホームで対応させて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルス感染防止の為、地域へ出ることも、ホームへ来て頂くことも、今できることを考え行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に希望される医療機関の確認を行い、主治医と連携を取らせて頂いている。必要があれば、ご家族も同行頂き、直接主治医から話を聞いて頂いている。専門医受診が必要な場合は必ずご家族に相談させて頂いている。お看取りの場合も主治医からの十分な支援があり安心頂いている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様の心身の状態の変化に気付いた場合は、些細な事でも必ず、個別の看護・連絡欄に記載し申し送りを行っている。早期に適切な受診や看護を受けられる体制になっている。訪問リハビリについても同様である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	認知症の方が入院された場合のリスクを常に考え、家族や主治医、病院相談員と情報交換を行っている。入院時は必ず同行し、医療機関への情報提供を行っている。何かあれば、病院関係者や家族と相談させて頂いている。急な退院にも対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた方針について「重度化した場合と看取りの指針」を配布し説明を行っている。ご本人、家族の状況に配慮しつつ看取りを行っていくうえで、どの様に関係者が協力体制をとっていくか、その都度相談させて頂いている。ご家族の意向に添うよう努力している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成している。急変時にはバイタルチェックを必ず行い、看護師、施設長に報告を入れる事を普段から徹底している。利用者様の個別の病状について把握出来る様、個別のファイルを作成している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を行い、避難方法や搬送方法を学んでいる。各フロアーには停電時に備え、懐中電灯を用意している。水害災害時の垂直避難訓練を実施。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の心を傷つけてしまわないような声掛けの仕方、感謝の言葉の大切さについて、繰り返し話し合いを行い、良い結果に繋がっている。認知症研修においても接遇・マナーの研修を行った。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の言葉や手振り、身振り、表情に何の意味があるのかや思いを常に考え関わっている。何か行う時には必ず利用者様に伺うようにしている。発言しやすい雰囲気作りが大切だと感じ、笑顔を中心掛け、実践に繋げる努力をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおまかなホームでの日課は決まっているが、ご本人の希望や体調により個々に過ごし方を変えています。自発的に行って頂いている事を大切に継続出来る様支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容は2ヶ月に1回利用頂いている。衣類が汚れた場合は早めに着替えて頂ける様、支援している。口元や手の汚れにも注意している。爪切りなど介護職員で困難な場合は看護師に依頼し行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のメニューや下ごしらえ、調理などケアプランに入れ、手伝って頂いている。食器洗いや食事前後のテーブル拭きの担当の方がある。季節が感じられる食事提供(おはぎや七草がゆ等)を心がけている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分不足な方にはゼリーやその方の好みの合った物を提供し、摂取頂いている。ご家族からの差し入れもお願いし、飲んだり食べたりが出来る様工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアを行っている。舌ブラシや洗口剤を個別で使用頂いている。必要に応じ歯科受診や往診の支援を行っている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居時に紙パンツを使用されていた方でも、個々に対応することで布パンツへ変更して頂いたり、パット内失禁がない様にトイレ誘導の声掛けを行ったりしている。尿取りパットについて、3種類を取り入れ、個々の排泄パターンでの個別対応に変更。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬ばかりに頼るのではなく、バナナ、乳酸飲料や牛乳の飲用、運動を取り入れ、予防に取り組んでいる。腹部の温湿布やマッサージなども取り入れ、調子の良い排便のパターンを作り出している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日やおおむねの時間帯は決まっているが、その日の体調や気分が入浴日や時間を変更。入浴剤を使用し、気分良く入って頂ける様、支援している。毎日、声掛けをさせて頂いている方もある。入浴拒否の方には、清拭を取り入れたり、入浴日以外で足浴を行ったりして、徐々に慣れて頂いている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝や、夜の入床時間など個々に対応させて頂いている。不安な時は、話を傾聴し落ち着いて眠って頂ける様な関りをさせて頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	把握しており、症状の変化に注意している。薬の変更について随時、看護師から申し送りがあり、利用者様に変化が見られれば、看護師に申し送っている。ご家族の心配事なども伺い主治医に伝えている。かかりつけ薬剤師との連携も行き、体調変化に対応。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方が出来る事、好きな事を見つけ、散歩、レクリエーション、月の行事、家事作業など楽しみの支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	ご本人やご家族が希望される医療機関への通院、おやつのお買い物、散歩、花見など、コロナ禍であっても、外へ出かける機会を増やす努力をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金を持ちたいと希望される方があり、安心感を感じて頂くために、財布に入れて持って頂いている方がいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話に関しては、利用者様やご家族の希望があれば、ホームの電話を利用して頂いている。手紙などもお渡ししている。携帯電話のライン機能を利用し、画像の送信やビデオ通話にてコミュニケーションを取って頂いている方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内を清潔に保ち、不快感を感じ無い様に配慮している。玄関やフロアー、洗面所に季節の花を飾るなどし、ゆったりと落ち着いた雰囲気でも過ごして頂ける様、工夫している。作品作りなども利用者様に楽しみながら行って頂けるよう工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ウッドデッキ、玄関に配置された椅子に座って頂ける様、個別に過ごして頂く場所があり、利用者様自身の能力で上手に使い分けてみえる。利用者様によっては事務所に話しに来られる方もいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自身の作品や写真で室内を飾ったり、清潔感や安全面にも配慮している。ご自宅から思い出の物を持ち込んで頂いている方もいる。TV番組表を掲示し、楽しみにされている事への支援も行っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーで手すりの設置もされている。ウッドデッキを通り庭へ洗濯物を干しに行ったり、取り込んだりして頂くことが出来る様に工夫している。		